

四万市 高森山物産

雲や水のように形もきめずに
流れのままに生きていると
思うこともある。

里山やスズキギの人工林は
人が手を入れないと木が盛れ
つぎに荒れて光も入らず
どんどん荒れてしまふ。
山は放っておくと鳥の多し
しい暗い沢原の森になつて
鳥の多き以上と云へる鳥の
森林
自然の恵みに感謝して手入れ
緑豊かな森をつくりたい。
近くの山が元氣になると
地域との再生にもつながる。

東中筋小学校の
歌歌にも
高森の
高嶺の
知徳を
体とね
手とり合
あそびな
東中筋
高森の
高嶺の
知徳を
体とね
手とり合
あそびな
東中筋

のぼり来て
谷千本の若葉
風すずしそに
眼とおぞて想へる
(大田水福恵)

自然界の営みの神秘や
不可思議さ。
山道を歩きながら
その時、その場の
花や鳥や樹との出会い。
それ自分と自然の
交信のようなもの。
それが「主張せず」
自然体で感得する愛しさ
なつかしさのようはもの

元氣に山と
たつくるが!!
(たつくるとは
工務分で考え回33)
という意図)

スミレと名付の源流

（墨入れ）

スミレ

源流

春にはスミレが

高森山 336.5m
土佐の小京都 四万十市中村の町形
あり 具同 入田、横畠、佐田の4つの
地区にまたがっている。
シン・カシヤツに、カガキ、ヒメなどの横林の
中を歩道が整備されている。
景観にもすぐれ、四万十川や油井橋、
赤鉄橋、市街地、太平洋を展望できる。
山頂には大きな石の祠、手袋が「歩道は
大きな祠が祀られ、古くから地区の
人々の信仰を集めていた」といふところ

カワレミ) (隠環)
着ると姿をかくすことのイ
カレミの」に葉の形をな
古来より神聖視され、榊
宮中の食器として使われて
三角柏(みづがけ)との説
樹皮からとれる樹液を
薄塗りして塗料に用
(薄塗り)

国道56号

2013-5-30